

平成31年度

運営に関する計画

大阪市立喜連小学校

大阪市立喜連小学校学校目標

「人間性豊かな子どもの育成」

- ・自ら学ぼうとする子
- ・思いやりのある子
- ・元気でくじけない子

学校教育方針

- (1) 民主的な社会の形成者として必要な人権尊重の精神と態度を養う。
- (2) 個性を尊重し、自ら学ぶ態度を育て、知性と創造性を養う。
- (3) 真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培う。
- (4) 健康でたくましい心身を育て、自律的な生活習慣や態度を養う。
- (5) 互いに敬愛し、協力する集団を育て、社会連帯や国際理解の基礎を養う。

重点課題（具体的方策）

- (1) 「生きる力」（確かな学力・豊かな心・健やかな体）をはぐくむ教育活動を推進する。
 - ① すすんで学び考える。（朝の読書を継続し、体育学習を通して）
 - ② 元気にあいさつ誰にでも
 - ③ 人を大切に、自分を大切に
 - ④ ルール 約束を守る。（黄帽着用の徹底を通して）
 - ⑤ 情操豊かにのびのびと たくましく（運動の日常化を通して⇒エクササイズタイム）
- (2) 学校からの情報公開を推進し、地域・保護者との連携を密にする。
 - ① 喜連小 HP や学校だよりや「喜連小っ子だより」等を活用し、学校からの情報発信の充実を図る。（学校だより、学級だより等の活用を図る。）
 - ② 学校の説明責任が果たせるよう、関連資料等で数値化できるものは数値化に努める。
 - ③ 学校評価、学校評議員設置への取り組みを勧める。
- (3) 学校での安全確保に向けた取り組みを強化する（ルールを守ることの徹底を通して）

大阪市立喜連小学校 平成 31 年度 運営に関する計画・自己評価 (総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題**全国学力・学習状況調査**について

国語科については国語 A では「話すこと・聞くこと」と「読むこと」の領域が全国平均正答率を上回っている。算数 A でも「図形」の領域が全国平均正答率を上回っており、着実に全国との差を縮めていると考えられる。国語科は読書活動の充実が、算数では習熟度別少人数指導が学力向上につながってきているものと考えられる。しかし、基礎学力的な部分の向上はみられるが残念ながら国語 B、算数 B、理科においては全ての領域で平均正答率は全国を下回っており、主として「活用」に関する学力の向上をいかに図っていくかが、本校の今後の課題であると思われる。

全国体力・運動能力、運動習慣等調査について

今年度は体力合計点で全国平均に男子は 0.56 ポイント低かったが女子は 0.06 ポイント高かった。全国平均を上回った種目は、男子は「上体起こし」「50m 走」「立ち幅とび」「ソフトボール投げ」の 4 種目で女子は「握力」「上体起こし」「長座体前屈」「50m 走」「ソフトボール投げ」の 5 種目であった。

学力向上に向けて

○今年度も研究部を中心に、各学年 1 回ずつ計 6 回研究授業を行い教育センターより教育指導員を招き研究討議を行い授業力の向上に努める。

○「ひらちゃん読書ノート」の活用

朝の読書タイム・図書室の活用により児童の読書習慣のさらなる定着を図る。

○学力の基礎・基本の定着

家庭学習教材の工夫等により家庭学習を定着させる。

○「振り返りプリント」の実施や「東書ライブラリー」の教材プリントの活用。

○外国語教育

月一回「外国語部会」を実施し、本格実施に向けて、教職員に向けて学習内容等の周知や意思一致を図っていく。

体力面について

今年度も「サスケチャレンジ」等児童の体力向上に向けた取り組みを引き続き行い、男女とも体力合計点が全国平均を上回ることを目指す。

生活面について

○あいさつ運動、安全歩行運動、縦割り班活動等を引き続き実施し学校全体として仲間意識を高めていく。

学校目標に沿って教育活動を行っていく**中期目標**

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

○校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95%以上にする。

○小学校学力経年調査における・校内調査における「学校の決まり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を 85%以上にする。

○校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度と同様にする。

○校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。
- 小学校学力経年調査における正答率が市平均の7割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も3年間で3ポイント減少させる。
- 小学校学力経年調査における正答率が市平均を2割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も3年間で3ポイント増加させる。
- 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。
- 全国体力・運動能力、運動習慣調査において、男女とも体力合計点が全国平均を上回ることを目指す。

全市共通目標

- 平成31年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。
- 平成31年度の小学校学力経年調査における・校内調査における「学校の決まり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を85%以上にする。
- 平成31年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度と同様にする。
- 平成31年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- 平成31年度の小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。
- 平成31年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均の7割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント減少させる。
- 平成31年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均を2割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント増加させる。
- 平成31年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。
- 平成31年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、男女とも体力合計点が全国平均を上回ることを目指す。

2. 中期目標の達成に向けた年度目標

全市共通目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- 平成 31 年度末の校内調査において学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95%以上にする。
- 平成 31 年度末の小学校学力経年調査における・校内調査における「学校の決まり・規則を守っていますか」の項目について「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を 85%以上にする。
- 平成 31 年度末の校内調査において暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度と同様にする。
- 平成 31 年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力体力の向上】

- 平成 31 年度の小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。
- 平成 31 年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均の 7 割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント減少させる。
- 平成 31 年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均を 2 割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント増加させる。
- 平成 31 年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。
- 平成 31 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、男女とも体力合計点が全国平均を上回ることを目指す。

3 本年度の自己評価結果の総括

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおり達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】※全市共通目標 ① 平成31年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。 ② 平成31年度の小学校学力経年調査における・校内調査における「学校の決まり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を85%以上にする。 ③ 平成31年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度と同様にする ④ 平成31年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の状況を測る指標	進捗状況
取組内容 【施策1 安全で安心できる学校教育環境の実現】 毎月、生活指導部会を行い、いじめにつながる行動を起こす可能性がある児童がいるかどうかを共通理解する。いじめ行動を認知した場合は、生活指導部会・いじめ対策員会での話し合いを通して問題解決の方法を考え、いじめ対策基本方針に従って学校全体で解決に努める。	
指標 ・ 平成31年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。	
取組内容 【施策1 安全で安心できる学校教育環境の実現】 - 毎月の生活指導部会において暴力行為を複数回行う加害児童の把握をし、解決方法の手立てを考え、実行する。必要に応じて地域の主任児童委員や民生委員の方と連携を図る。 - 毎月の生活指導部会において不登校の児童の把握をし、担任や管理職が家庭訪問等を通して家庭との連絡を密にとるようにする。必要に応じて地域の主任児童委員や民生委員の方と連携を図る。	
指標 ・ 平成31年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度と同様にする。 ・ 平成31年度末の校内調査において、不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。	
取組内容 【施策2 道徳心・社会性の育成】 - 学校の決まりを守ることを朝会や学級で児童に働きかけ、全教職員で日常的に指導する。 - 児童が主体的に決まりを守ることが大切である態度を育むことができるように、児童発信の取り組みを学期に1回行う。 - 自然体験や社会体験等の各行事において、自らの役割をきちんと果たし、自主的に取り組む態度を養う。	

指標	- 平成31年度の小学校学力経年調査における「学校の決まり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える児童の割合を85%以上にする。 ※ 経年調査の結果が間に合わない場合には、校内アンケートを事前に実施したもので評価を行う。	
----	--	--

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
次年度への改善点

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおり達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】※全市共通目標 ① 平成31年度の小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。 ② 平成31年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均の7割に満たない児童の割合を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント減少させる。 ③ 平成31年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均を2割以上上回る児童の割合を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント増加させる。 ④ 平成31年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。 ⑤ 平成31年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、男女とも体力合計点が全国平均を上回ることを目指す。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の状況を測る指標	進捗状況
取組内容 【施策5 子供一人ひとりの状況に応じた学力向上への取り組み】 ・学年の実態に応じて、児童が主体的に学習に取り組むことができるような手立てを行い、学習に対する関心・意欲の向上を図る。（目標①・③）	
指標 ・学校生活アンケート【授業では、自分で考え、自分から取り組んでいます。】の項目において、肯定的な回答の割合を75%以上にする。	
取組内容 【施策5 子供一人ひとりの状況に応じた学力向上への取り組み】 ・基礎基本の定着を目指して学習をすすめ、習熟度別少人数指導等を充実させるなど、理解度に応じた学習のあり方を模索する。（目標②）	
指標 ・算数についてのアンケート【問題のときかたがわからないときは、あきらめずにいろいろな方法で考える】や【問題をとくとき、もっとかんたんにとく方法がないか考える】等の項目において、肯定的な回答の割合を75%以上にする。	
取組内容 【施策2 道徳心・社会性の育成】 ・学習において話し合い活動を数多く取り入れ、話し合い活動によって学びが広がったと実感できるような場を設定する。（目標④）	
指標 ・学校生活アンケート【学級の友だちと話し合っ、自分の考えを確かめたり、わかったことが増えたりしています】の項目において、肯定的な回答の割合を75%以上にする。	

取組内容 【施策 7 健康や体力を保持増進する力の育成】 ・全校体操や体力を高める運動習慣を設定し、体力向上への意欲を高める。(目標⑤) 指標 運動に関する能力調査を前期・後期で行い、前期より後期の記録が向上した児童の割合を 8 割以上にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	

教員の研修計画

月	研 修 内 容
4	研究主題の設定 運営に関する計画立案 研修・研究計画立案 各教科・領域部会の計画立案 研究推進委員会 全体研究会 アレルギー疾患対応研修
5	人権生指全体会(児童理解①) 特別支援教育に在籍する児童理解(児童理解①)
6	授業研究会 平野区人権教育講演会参加個人研修
7	授業研究会 外国語活動訪問研修会 水泳・救命講習会 個人研修 研修・研究会参加
8	研修・研究会参加 教材・教具の作成と整備
9	学習指導案の検討会
10	運営に関する計画(中間評価) 授業研究会 ICT研修会
11	授業研究会 平野区人権教育実践交流会 教科・領域部会(反省) 人権生指全体会
12	授業研修会 研修・研究会参加 個人研修
1	区教員研究発表会 授業研究会 OJT研修 研究推進委員会 研究紀要作成 研究紀要検討
2	運営に関する計画(最終評価) 研究推進委員会(全) 総合研究発表会
3	本年度研究のまとめ 研究推進委員会 次年度の計画立案
備 考	学習指導案の検討会(随時) プレ授業・模擬授業(随時) 英語研修 (随時) 各種実技研修(随時) 伝達講習会(随時) 国際理解教育研修(随時) ICT研修会(随時) ICT訪問研修 特別支援教育研修会(随時) 初任者研修会(随時) メンター研修(随時)

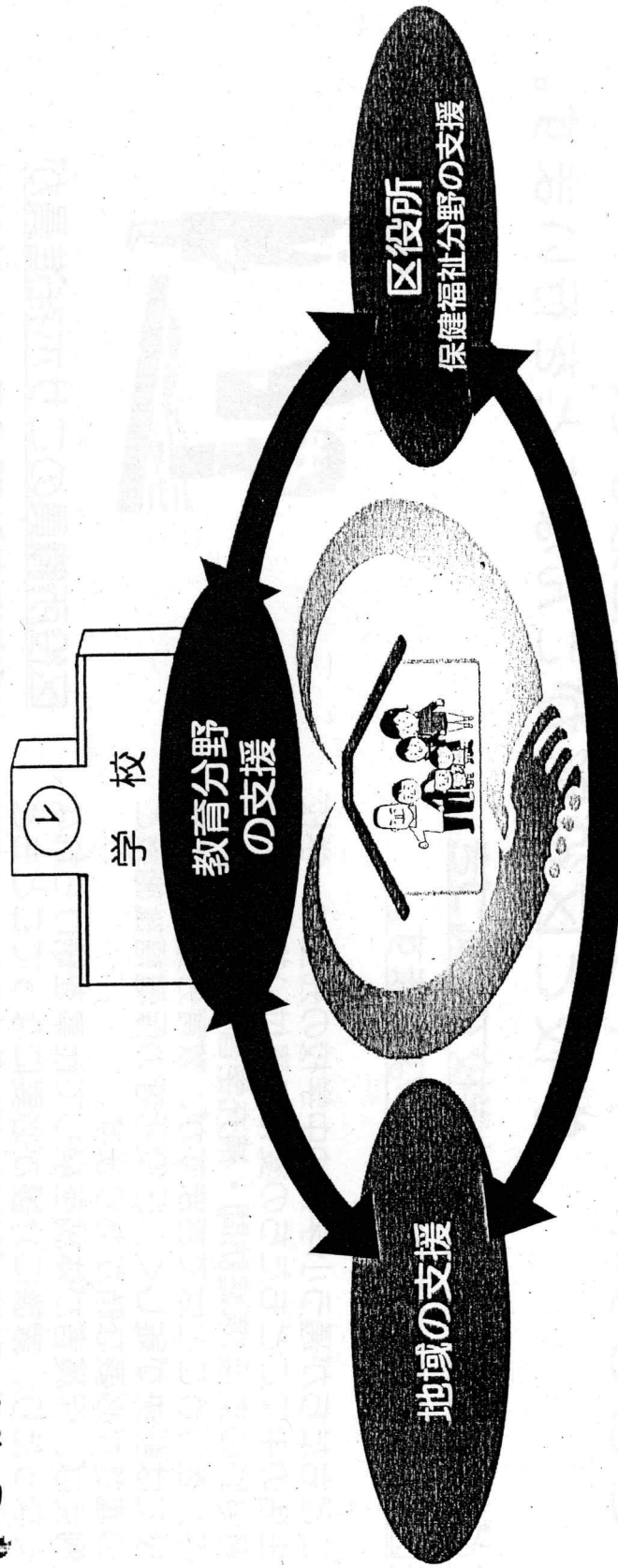
大阪市子どもサポートネット

子どもサポートネットは、こどもと子育て世帯を、学校（教育分野）・区役所等（保健福祉分野）・地域が連携して、社会全体で支える新しいしくみです。

大阪府が平成28年6月～7月に実施した「子どもの生活に関する実態調査」の分析から、学校（先生）の“気づき”を活かし、こどもや世帯に必要な支援（区役所や地域等）につなぎ、社会全体でこどもとその世帯を総合的に支えるしくみをつくります。

※「子どもサポートネット」は、此花区・港区・大正区・浪速区・生野区・住之江区・平野区においてモデル実施します。

学校での気づきを区役所や地域の支援につなぎます。



こどもサポートネットは、必要に応じて、 学校と区役所がこんなことを行います。

こどもサポートネットは学校での気づきを
区役所や地域の支援につなぎます。

- こどもたちが通う小学校や中学校の先生は、学校生活の中でこどもたちの変化に気付いたとき、教育分野の支援(家庭訪問・補充学習・生活指導等)を行うことはできますが、教育分野だけの支援では解決が難しく、区役所等の保健福祉施策との連携が必要な時があります。
- 例えば、保護者が体調を崩して仕事を続けられなくなったり、家族に介護が必要になってくとも一緒に過ごす時間がなくなったりすると、こどもが勉強に集中できなくなったり、落ち着きがなくなってしまうこともあります。
- 「こどもサポートネット」は、こどもの変化を学校でキャッチして、情報を区役所と共有し、その家庭に必要な保健福祉の支援を届けるしくみです。



区役所職員がこサポ推進員が
ご家庭を訪問することがあります。

保健福祉の制度や地域の支援情報を良く知るこサポ推進員(区役所職員)が学校と連携し、家庭訪問などにより、保健福祉制度の説明や各種手続きのお手伝いをします。

お問い合わせ

平野区役所 保健福祉課 子育て支援室

電話：4302-9936